

1. 部員自己紹介（敬省略）

当別中学校	西当別中学校	新篠津中学校
小森 亨（頭）	寺嶋 裕介（頭）	光野 明彦（役・年）
大淵 徹（1年）	嶋田 顕浩（3年）	
石山 慎一（2年）	村上 直史（1年）	

2. 役割分担（推進委員、副推進委員、授業者 敬省略）

年度	推進委員	副推進委員	授業者
平成27年度	大淵（当別中）	光野（新篠津）	当新教研…嶋山（弁華別中） 石教研…村上（西当別中）
平成28年度	村上（西当別）	石山（当別）	光野（新篠津）
平成29年度	大淵（当別）	光野（新篠津）	村上（西当別）
平成30年度	村上（西当別）	大淵（当別）	石山（当別）
平成31年度 （〇〇元年度）	（ ）	（ ）	（ ）
〇〇2年度	（ ）	（ ）	（ ）

☆平成30年度の中心グループは【千歳】

3. 今年度の石教研数学部会の研究課題（詳細は別紙）

「主体的に学び、数学的に考える生徒の育成」
～数学的活動の質を高める発問の工夫～

4. 今年度の当新教研数学部会の研究内容・取り組みについて（案）

【2017年度の研究の経過】

- 4月 当新教研1次研究協議会（研究計画立案）
- 6月 当新教研中間研究協議会（実践交流）
- 9月 当新教研2次研究協議会（研究授業：西当別中学校 1年 村上 直史先生）
- 10月 石教研2次研究協議会
- 2月 当新教研3次研究協議会（研究のまとめ）
- 3月 数学の窓発行

◎成果と課題

課題を提示して、解決しようとするアクティブラーニング型の授業であった。どの生徒も意欲を持って取り組み、図や式などを用いて課題を解決しようとする姿勢が見られた。研究の中心である数学的活動を意識した発問を、より明確にすると、よかったかも知れないが、数学の良さに気付かせる良い授業であった。

(1) 研究主題

「主体的に学び、数学的に考える生徒の育成」
～数学的活動の質を高める発問の工夫～

(2) 研究仮説

学習過程の中で、数学的活動を充実させる意図的な発問によって、生徒が主体的に学ぶことができ、知識、技能を確実に習得できる。また、中・長期的に数学的活動を繰り返し行い、学習過程を工夫していくことで多様な見方、発展的なとらえ方、また、筋道を立てて説明するなど数学的に考える生徒の育成ができる。

(3) 研究内容

(1) 数学的活動を充実させる意図的な発問の工夫

- ・生徒が“使わされる活動”から“使う活動”への数学的活動の向上
- ・基礎的、基本的な知識と数学的な技能を習得する活動の向上
- ・既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだす活動の向上
- ・日常生活や社会で数学を利用する活動の向上
- ・数学的な表現を用いて根拠を明らかにして筋道を立てて説明し、伝え合う活動の向上

(2) 数学的活動の質を高める学習過程の工夫

- ・中・長期的な活動を繰り返していくことで、数学的活動の質を高める
- ・多様な考え方ができる生徒の育成を目指した数学的活動の充実
- ・発展的な考え方ができる生徒の育成を目指した数学的活動の充実

※昨年度と研究内容は変わらないが、今年度は研究内容(2)に重点を置く

→ レベル2を意識した発問を練る(詳細は別紙)

(4) 研究方法

- ・発問の工夫を日常的に意識して行い、数学的活動の質を高める研究をすすめていく
→ 授業で使ったプリント、定期テスト、教材教具の交流もあわせて行っていく
- ・中間交流、2次協議会で各々の実践を持ち寄り、交流していく。

5. 今年度の活動日程

4月10日(火)	石教研専門部会1次研究協議会(江別江陽中)
4月13日(金)	当新教研専門部会1次研究協議会(当別小)
5月	新入部会研修会
6月14日(木)	当新教研中間交流
7・8月	実技・理論研修会
9月 3日(月)	当新教研2次研究協議会(授業研…)
10月12日(金)	石教研第2次研究協議会(千歳)
2月 8日(金)	当新教研3次研究協議会・・・数学の窓提出(たぶん穴なし130部印刷)・帳合
3月	「数学の窓」発行